

■建設委員会県内調査 110728.0804.0824.1110.1118

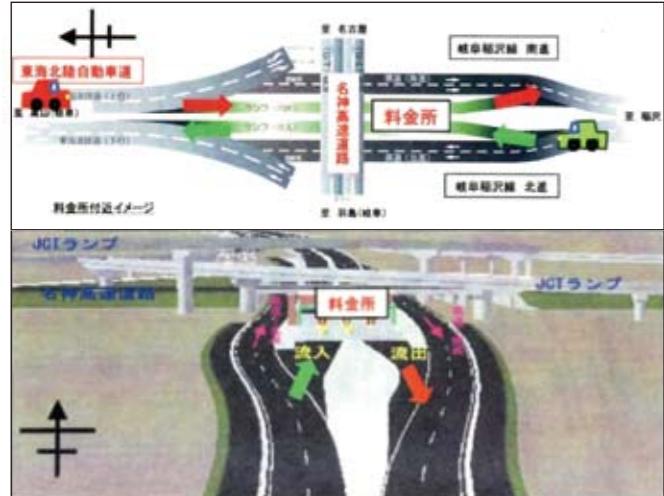
建設委員会の県内調査は県内各建設事務所を隈なく回り、現地調査及び地元市町村との意見交換(陳情)とハードな調査でした。名古屋高速道路公社・尾張建設事務所から、西三河/豊田加茂建設事務所、三河建設事務所・三河港務所/新城設楽建設事務所、知立/知多建設事務所・衣浦港務所、一宮/海部建設事務所管内まで5日間に及びました。地元の一宮建設事務所は、稲沢市・一宮市・江南市・岩倉市・犬山市・大口町・扶桑町の5市2町を管内とし、人口約80万人、面積は県全体の6.5%に当たります。

●都市計画道路祖父江稻沢線



合併の新市建設計画に記載の東西を結ぶ重要路線。平～西島(稲沢祖父江線900m)、桜方～森上(名古屋祖父江線750m)は着工済み、西島～森上の未着手区間は1,450m、名鉄・日光川があり一日も早い着工、供用開始を要望。

●東海北陸自動車道西尾張IC(仮称)



西尾張中央道の北高井交差点から尾西インターまでは約3.5km、15の信号があり慢性的に渋滞、名神高速の南側に東海北陸自動車道のインター(地域活性化IC、名神には接続なし)を設置し解消を図る。県道を両側に移設し中央にランプ・料金所を設置、現在用地を取得しつつ調整池の嵩上げ工事を実施中。



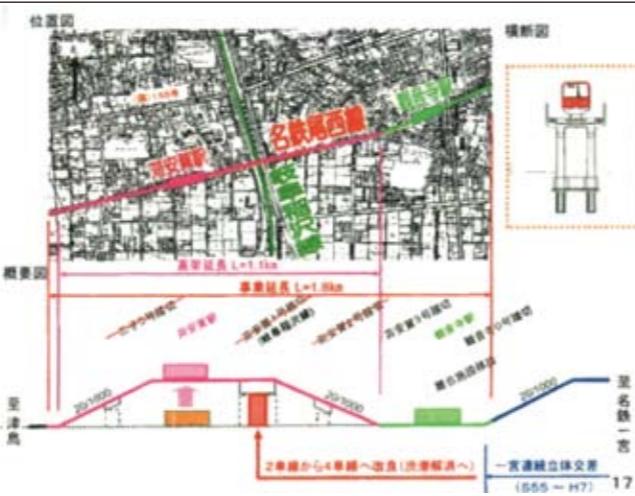
鈴木純事務所 稲沢市稻島11-24



稲沢市内の東西幹線軸として県道天池片原一色線の交差部まで供用しています。
現在、国道155号まで延伸するためバイパスの整備を進めています。



●名鉄尾西線苅安賀駅付近鉄道高架事業



西尾張中央道と交差する苅安賀1号踏切と近接する苅安賀駅を含めた約1.1km区間の鉄道を高架化。除却踏切は3箇所、電車すれ違いのための施設(離合施設)を観音寺駅に移設するため事業延長は約1.8km。高架鉄道は平面(西尾張中央道)と東海北陸自動車道との間に設置、西尾張中央道は4車線化。

●都市計画道路稻沢西春線

西尾張中央道から一宮市地内のR22号までの計画区間は5.8km、工事区間は大江川(治郎丸)～市境の青木川まで2.5km。街路事業、土地区画整理事業、道路事業と整備手法は異なるが一部供用を開始している。159件の応募があった跨線橋の名称は「稻沢夢逢(ゆめあい)橋」に決定、今年度末供用開始予定。



TEL 24-6600 FAX 23-0791

11月定期県議会

民主党愛知県議員団

PRESS

責任者:鈴木純 名古屋市中区三の丸1-2
代表電話 052-961-2111 FAX052-961-3766

県民税10%減税 来年度見送り

11月29日に開会した11月定期会は当初提出の補正予算や条例の一部改正など33件に加え、11月21日に成立した国の第3次補正予算を受けた追加議案、継続審査の平成22年度決算について審議し、全会一致で可決、同意、承認、認定し、12月16日に閉会しました。

一般会計では当初の補正の124億8400万余円は地域医療再生基金約66億円と災害復旧費約11億円を含む公共事業(県債の発行は約25億円)に加え、追加の補正分約63億円は緊急雇用創出の基金積立金約33億円や防災対策の公共事業約29億円(県債約13億円)などで合計補正額は188億円に上りました。

条例等では東三河総局の設置のほか、パスポートの発給申請など新たに市町村へ移譲する事務や認定こども園の認定基準、牛の生食用食肉の営業基準、基金事業の期限延長など条例の一部改正、人事案件などです。



未来への希望 絆(きずな)

今回の市議選で初当選したご子息の披露宴に出ましたが、市議曰く選挙結果がどうなるか分からなかつたので…やはり家族の絆を思いました。三陸町職員の遠藤未希さん・防災無線で最後まで避難を呼び掛けていたお嬢さんの勇気ある行動を忘れません。テレビの映像に涙、未曾有の震災は私たちに大きな悲しみをもたらしました。その中、未希さんの勇気ある行動で何人もの町民の方が避難しました。国民総幸福量(GNH)を重んじるブータン国王は国会演説の中で「いかなる国の人も決してこのような苦難を経験するべきではありません。しかし、仮にこのような不幸からより強く、より大きくなり立ち上がれる国があるとすれば、それは日本と日本国民であります。」と述べられました。正しく未希さんや地元(企業も含め)の皆さんの勇気が、自衛隊、警察官、消防士、関係職員の使命感が、そしてボランティアの方の思いやりが、人と人、地域をつなぐ絆として、日本の復旧、復興へ光を与えてくれました。未

来への希望を力に未来へつづくまちづくりへ一生懸命働きます。

▲ブータン王国ワンチュク国王(31)とペマ王妃(21)は東日本の被災地を訪ね祈りを奉げられました。(写真はMSN産経ニュースHPより)

愛知県議会議員
(稲沢市選出)



すずき純

■民主党県議団として県政報告実施!



民主党県議団所属議員の多くは、地元での街宣活動や後援会・支援団体との県政報告会などを通じて県政各般にわたり意見交換を行っていますが、県議会・議員の仕事が見えないなどの意見があるのも事実です。本来は総務会で検討を始めている議会基本条例等に位置付けて活動していくことが重要であると思いますが、まず、出来ることから取組み、議会改革を前進させていくことも必要であると考え、定例会毎に、会派として議会報告(街宣活動)を行い民主党県議団としての姿勢を示していくこととしました。

●第1弾は名古屋駅東口ロータリー (写真上)

第1弾は準備不足の面はありました、改選された最初の定例会から始めることが重要と考え、第1回民主党県議団県政報告として、6月定例会閉会日の7月15日午後5時30分から1時間にわたり名古屋駅東口ロータリーにて実施。第一声を中村友美議長にお願いし、総務会長の鈴木は司会進行(後半は副会長にバトンタッチして議会報告配り)と代表質問報告を行いました。

●第2弾は刈谷駅北口ロータリー (写真右)

第2弾は、9月定例会閉会日に、刈谷駅北口ロータリーで実施。団長挨拶、代表質問、一般質問、地元議員などの県政報告の後、副団長の挨拶で終了。連合愛知や大西事務所の応援もあり熱の入った登壇者は時間オーバーで…

民主党県議団は、県議会としての海外調査の意義は認めるものの現状のあり方の見直しのために、また東日本大震災や厳しい財政状況を考慮して、あえて**4年間に一度の県議会海外調査凍結**という形で一石を投じました。

知事の特別秘書問題では条例の修正案を総務県民委員会に提出、約50年ぶりに条例の修正案を可決し、二元代表制のもと是々非々の立場を明確に致しました。知事要望も今までの問題点を改め新年度予算に反映できるようにしました。『県民の幸せに繋がるあいちづくり』に向けて負託をいただいた26名が心を合わせて活動して参ります。

■連合愛知尾張南地協結成20周年記念感謝の集い

10月12日に名古屋市内のホテルで、連合愛知尾張南地域協議会の結成20周年感謝の集いが行われました。1991年の結成当時の稻沢、海部地協から1996年に南地協になり現在にいたりました。

写真はお世話になった皆さんと

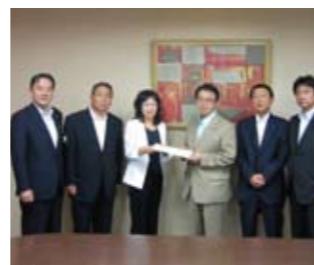
■2011年ありがとうございました。



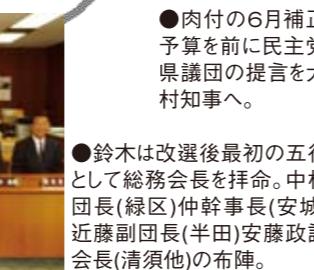
●今年のスタートは昨年の市長選に続き、愛知県知事選挙が始まりました。写真は御園氏の応援に駆け付けた鳩山前総理です。(車上は御園氏のお嬢さんと鈴木です)



●4月の統一地方選挙は国政の影響で民主に逆風。県議会も前回の38人当選から26人に激減。地元稻沢市選挙区では無投票にて鈴木は当選されました。



●肉付の6月補正予算を前に民主党県議団の提言を大村知事へ。



●鈴木は改選後最初の5役として総務会長を拝命。中村団長(緑区)仲幹事長(安城)近藤副団長(半田)安藤政調会長(清須市)の布陣。

がんばろう
東日本



●3.11東日本大震災発災。連合愛知の皆さんと街頭募金、多くの皆さんにご協力頂きました。



●鈴木は改選後最初の5役として総務会長を拝命。中村団長(緑区)仲幹事長(安城)近藤副団長(半田)安藤政調会長(清須市)の布陣。

■議会運営委員会県外調査

初めての議会運営委員会(副委員長)で10月19、20日に議会改革の先進県である北海道議会を調査させて頂きました。

1.議会運営等について

本県人口の約75%、面積は16倍の北海道、議会定数は104人と同規模。議長、副議長(議運も同様)は自民、民主で分け任期2年間。常任委員会は9委員会、定例会毎に予算特別委員会を設置。

2.議員提出政策条例の状況について

本県は平成20年4月に議員提案による政策条例の策定に関する申し合せを策定したが、道議会では既に平成16年に申し合せ事項を会長会議決定しており、平成15年以降では、障がい者関係条例はじめ6条例が成立。

3.議会基本条例の制定等議会改革への取組について

北海道議会基本条例は平成21年7月に制定、前文に続き、総則、議会・議員の役割及び活動、道民との関係、知事等との関係、議会改革など7章27条。必要に応じて委員会を関係市町村に出向いて開催や議員の職務について議員の活動の実情に即して規定などの特色をもつ。

■建設委員会県外調査

建設委員会は10月26日~28日に秋田県、青森県で調査を行いました。調査項目は以下の2点のほか、角館バイパス工事(国交省東北地整秋田河川国道事務所 秋田県仙北市)と橋梁維持管理におけるアセットマネジメント(青森県土木整備部 青森市)です。

あおもり観光マスコット いくべえ



1.都市と自然が調和したまちづくり(コンパクトシティ)(青森市都市整備部 青森県青森市)

青森市は今後10年で人口は1割の減少、高齢化率は30%台と少子高齢化が危惧され、市街地の拡大による除雪経費の増大は財政を圧迫。更に、県施設の郊外移転など市街地の拡大と中心部の空洞化が進展。青森市がコンパクトシティを目指した原点は「雪」であり、平成11年策定の都市計画マスターplanから都市運営コストの低減や自然環境との調和など目標としている。開発の限界線を設け、アウター、ミッド、インナーと同心円状に3区分。大規模集客施設の郊外立地を規制するなど全国初の取組もしているが、有効なインセンティブもなく集約には時間がかかる。

2.八戸港の復旧・復興に向けた取組(国土交通省東北地方整備局八戸港湾・空港整備事務所 青森県八戸市)

東日本大震災の津波による人的被害は最小限ながら、港湾施設や県管理道路施設が被害を受け、北東北の中核的港湾である八戸港を中心に沿岸部の工場操業停止など経済的被害は甚大。八戸港は震度5強、津波の高さは4.2m以上(最大8.4m三菱製紙(株)八戸工場)で、八太郎北防波堤中央部の被災のメカニズムは堤体背後の洗掘によりケーンが移動、押さえが無くなつた消波ブロックが法崩れしたことによる。復旧は最長となるハネ部で平成25年度末概成、26年度末完成見込みだが、津波対策は今後の検討課題。

2012年も宜しくお願いします。



改選後最初の6月定例議会で初めて民主党県議団の代表質問を務めさせて頂きました。



選挙の年の最後を飾る稻沢市議選。星野、魚住、遠藤、木全各候補の出陣式で激励。全員揃って当選させて頂きました。



民主党政団として初めて定例会後の県政報告(街宣)を開始。写真(右)は第1回の名古屋駅東ロータリー、第2回は刈谷駅北口、第3回は豊橋駅。



モノづくりの愛知の中小企業の皆さんが集まって開発したコンバージョン(ガソリン車からの転換)EV。産業振興・雇用対策特別委員会の県内調査@津島市のEV愛知の工場で。

